



TITLE:

静脩 Vol. 23 No. 1 (1986.10) [全文]

AUTHOR(S):

CITATION:

静脩 Vol. 23 No. 1 (1986.10) [全文]. 静脩 1986, 23(1)

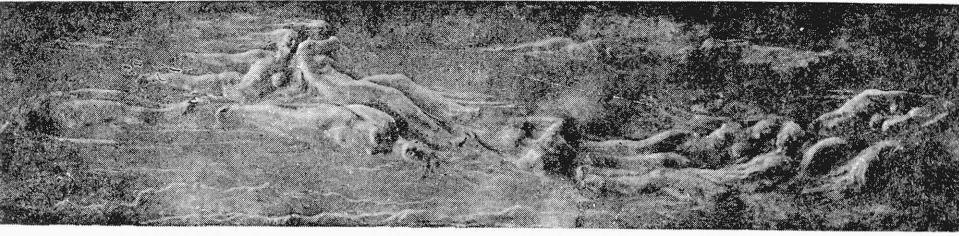
ISSUE DATE:

1986-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/65985>

RIGHT:



静脩

1986年10月

The Kyoto University Library Bulletin

Vol. 23, No. 1

挨拶

附属図書館長 西田 龍雄

この四月一日から、私は思いがけなくも、附属図書館長に選ばれました。身に余る光栄ですが、何にしろ図書館の管理運営には、これまで経験がありませんので、よろしくご支援の程お願いいたします。

大学図書館の使命について、前館長の西原先生が『静脩』の中で、堂々と論じておられます。私はまだ到底その水準まで考えが及ばず、当分は私の能力の範囲内で、責務を果たすことでお許しいただきたく思います。

ごく一般常識的に見れば、古い文化遺産を記録する豊富な書籍の保存と整理、そしてそれらの効率的な活用を通じて、新しい文化の創造に貢献する場が図書館と言えます。教育・研究活動に対する支援機構である大学図書館でも、この基本性格は同じで、伝承した書籍を安全に保存管理し、有効的に利用者の便をはかり、新しい思考の醸成に導き得る環境を作る、大学図書館の責務もそこにあると思えます。

利用者にとって、附属図書館と言えはやはり閲覧室でゆっくりと本を読み、思索にふける場というイメージが今も強いものです。つまり現状の学習の上にたって、新しい創造へと飛躍する場としての図書館であります。この基本点も、今後とも変

ることがないと思いますが、どんどん変っていくのは利用者が、新しい創造のために、如何に迅速に、そして正確に、また網羅的にあるいは効率のよい選択のもとに、既存の情報を獲得できるか、その手段にあります。最近の電算機導入による情報提供は、その要求にこたえる顕著な技術革新であったわけですが、将来、それをさらに上廻る新手段がどのように開拓されていくか、予測が付きません。

また図書の所在検索が、本学図書館蔵書に限らず、全国的なスケールにおいて可能になるめどがついていることも、大きな進展であります。本図書館は、昨年六月に学術情報センター（当時、文献情報センター）と接続テストを完了し、七月から教育モードの運用を、そして本年三月から業務モードによる運用を開始したことは、今後の発展への確かな約束と言えます。しかし現状では、まだ件数が限定されているのは、止むを得ないでしょう。

古い蔵書目録の遡及入力のための簡便な手段が早速に解決されれば、学内における LAN 情報ネットワークの完成と相俟って、近い将来、本学蔵書 445 万冊のみならず、全国各大学の蔵書の所在情報を、各研究室の端末機を通して、簡単に検索

できる日がやってくるに違いありません。

学内の情報通信組織は、ここ数年の中に、急速に開発されることでしょう。そして大型計算機センターと共に附属図書館の役割は、ますます増大することと思います。しかし、私はその点で図書館があまり先走りしてはならないと考えています。欲ばり図書館であってはならない。図書館は、すくなくとも図書および将来それに替るものの所在情報とそれに関連する事柄の提供には絶対に責任をもつべきですが、それ以上の学術情報通信には、図書館は積極的な協力をおしむべきではないけれども、それは専門機関にまかせるべきであろうと、今は考えています。

一方で、カバーのついた有用な目録も、従来通り必要であることは、言うまでもありません。本学所蔵の学術雑誌総合目録・和文編が、程なく本館から刊行される予定であります。中文関係が収録されていないのが大へん残念ですが、教官各位の研究活動に役立ててもらえることを期待しています。

次々と刊行される書籍を、図書館は予算の許す範囲内で購入しなければなりません。そのためには当然良書の選択が必要であります。特色のある選書方針を軌道にのせねばなりません。

この四月までに、図書館商議員を中心とした委員会はすべて解散されていて、選書については、館内に選書委員会が設立され図書館員が選書する方針になっていました。図書館自体、その内部組織が自から取捨選択にあたるのは原則ではあるけれども、大学図書館においては、学内の各分野の研究者に、専門領域だけではなく幅広い領域にわたってご意見をいただき良書を選ぶのが必要な順路であろうと考えます。この七月から、まだ委員会にはなっていませんが、各学部の商議員の先生方の参加ご協力を得て、新しい選書組織が活動を

はじめました。

古籍、善本の収集保存も、また言うまでもなく図書館の中心的な活動の一つであります。幸い本附属図書館には、内外に誇り得るすばらしい貴重書庫が設けられています。しかし、そこに収めるべき善本、貴重本をどのような基準で指定していくかは、むづかしい問題です。従来一応の基準がたてられていましたが、今回新しい基準を検討する「貴重書専門委員会」も、主に人文系の先生方のご協力によって、この七月に発足しました。

大勢の図書館職員の中には、書物に対して、とくに本学の所蔵図書について豊富な知識をもった方々がいることを知っています。その人たちは、いわば図書館の生き字引であります。一方において、電算化処理の徹底、つまり機器との問答で、解答を得られる方向とともに、他方で、学生諸氏の口頭による質問に、きめ細かい情報を口頭で提供できる生き字引のような図書館職員がいることは大へんすばらしいことと思います。私は生き字引の増加を、心から期待しています。そこにまた得難い伝統的な人間的交流が生きのびていくのです。

うかつにも、私は最近まで、いわゆる Japan MARC を Japan MARK とばかり思っていました。MARC が Machine Readable Catalog の略であることに、かなりたってから気がきました。

MARC は、中国では「機読目録」と言っています。日本語では普通「機械可読目録」と訳されており、ほかに適訳があるかも知れませんが、同じく「機読目録」あるいは「器読目録」ぐらいが、簡単に適当な用語ではないかと思います。

せいぜい「図書館にホン、館長うかつで留守がいい」とならないよう心掛け、図書館運営の責を果したく考えておりますのでよろしく願いいたします。（北京にて）

《「特殊コレクション」巡り ①》

この号から学内に数多くある「特殊コレクション」を順次紹介していきたいと思います。小さくても蒐集者の目のいきとどいたコレクション、文献案内の類にもこれまで紹介されることがなかったコレクションが学内にまだすくなくあるはずです。また例えば本館の「図書館利用案内」などに、その名称、冊数などの紹介はあったが、内容や寄贈者、寄贈のいきさつについて触れられることがすくなくあったものもかなりあります。このシリーズでは、できるだけこのような点にも触れて紹介していきたいと思います。

法 学 部

法学部では、洋書の特殊文庫としてハチェック、ターナー、トゥールの三文庫を所蔵しています。この三文庫はともに第一次世界大戦の賠償の一部として、ドイツから日本に供与されたもので、その後昭和6年に大蔵省から京都大学へ移管され、さらに昭和7年3月31日に法学部へ受け入れられたコレクションです。

ハチェック文庫は、ワイマール憲法下において国法学および行政学の分野で活躍し、またドイツとイギリスの比較法の専門家として、イギリス公法の研究においても大きい業績をのこしたJ・ハチェック(1872—1926)の旧蔵書であるため、公法学に関する図書が多く、なかには哲学史の図書も含まれています。また、19世紀後半の学者の蔵書に共通していえるように、当時としても古書にあたる18世紀の文献もみられ、Allgemeines Gesetzbuch für die preussischen Staaten, 1791. や Allgemeines Landrecht für die preussischen

Staaten, 1817. などは全国的視野からみても貴重な存在となっており、古書としての意味もさることながら、原資料としての価値をもっていると思います。

ターナー文庫は、教会法に造詣が深かったフリードリッヒ・ターナーの旧蔵書であるため、特に教会法関係の図書が多く、また教会法の性格上、古くは16世紀にさかのぼる文献もあり、貴重書としての価値のあるものもかなり含まれております。

教会法はいうまでもなく実質的にドイツ民法典成立以前のドイツの家族法の役割を果たしてきたので、世俗の現行法と区別されたものとして考えられず、法制度として妥当性をもっています。その意味でヨーロッパ家族法史を研究する者にとって重要な意味をもっております。しかも最近では日本の学会でも民法学史だけでなく、法制史の分野からも教会法の研究が盛んになっており、また法学史研究の動向にみられるように原資料の利用にむかいはじめた段階において、この文庫の価値は高く評価されるべきでしょう。

トゥール文庫は、ロマンステンに属しその精細・周密な体系は、ドイツ普通法の伝統に最後の光輝をそえたといわれる民法学者A・トゥール(1864—1925)の旧蔵書であるため、19世紀から20世紀に出版された歴史法学以前の私法関係の図書が多く含まれています。現在ドイツでは古典的な著作の復刻が盛んであり、19世紀の文献が相当復刻されているので、この文庫の図書は原資料であるという意味において価値をもっております。

なお、目録は以下のように、1976年3月「ターナー文庫目録」が刊行され、つづいて1977年3月には「ハチェック文庫目録」および「トゥール文庫目録」が刊行されています。

Katalog der Friedrich Thaner Bibliothek in der Juristischen Fakultät der Universität Kyoto.

Katalog der Julius Hatschek Bibliothek in der Juristischen Fakultät der Universität Kyoto.

Katalog der Andreas von Tuhr Bibliothek in der Juristischen Fakultät der Universität Kyoto.

大惣本の調査，第二年次に

「静脩」22巻1号でお知らせしたように、新館移転後の附属図書館では4階の調査研究室において、図書館資料の整備、解題などの作業を文学部の援助をえてすすめている。第一年次（昭和60年度）のテーマはすでに紹介したように、大惣本の目録解題の作成であり、その基礎的作業として

の各文献の書誌的調査が文学部日野龍夫助教授の指導のもとに、大学院、学部学生諸君によって進められてきた。本年4月現在で約 $\frac{1}{2}$ に相当する1,167点のカード作成が完了した。昭和61年度も同じテーマのもとにひきつづき調査がつづけられている。

「洋学史資料展」—— 附属図書館

附属図書館では下記の要項で展示会を開催する。

テーマ 「洋学史資料展」

日時 昭和61年11月20日(木)―28日(金)

場所 附属図書館展示ホール

展示本の内容は江戸時代の日本に招来された洋学の中でも、その中心となった医学、自然学、技術、地理学をはじめ、その媒体としての役割を果たした外国語文典、辞書などが予定されている。

なお、11月25日(火)午後2時からは本学名誉教授の吉田光邦氏の「洋学と日本の近代」と題する講演がAVホールで開催される。

「近世の小説本展」—— 教養部図書館

教養部図書館では読書の秋にふさわしい展示企画を、検討してきたが、このほど次のようにテーマ、日程が決った。

9時―4時30分

場所 教養部図書館1階

閲覧室展示コーナー

テーマ 近世の小説本

日時 昭和61年11月4日(火)―29日(土)

内容は近世における小説の移り遷りが概観できるように仮名草子、浮世草子、読本、洒落本、談

義本，滑稽本，人情本，赤本，黒本，青本，合巻物など，約40種類から構成されている。なお，教

養部図書館では，できれば今後春と秋の2回展示会を企画していく予定である。

図書館施設の見学

今年も近畿地区国公立大学図書館協議会の図書館施設に関する研究集会の一環として，図書館施設の見学がおこなわれる。今回は本年4月開館の同志社大学田辺図書館（京都府綴喜郡田辺町）。
日時は10月31日（金）13時30分—15時30分。

プログラムは

- (1) 施設の概要説明
- (2) 施設見学

(3) 質疑応答

からなる。同館は公式の名称を同志社大学ラーネッド記念図書館といい，全学部の一，二年次学生が対象である。学習を主たる目的とした図書館で，完全開架方式を特徴としている。貸出手続，目録検索はすべて電算機処理される。延床面積は7,201㎡。

昭和60年度特別図書購入報告

図 書 資 料 名	巻 号	刊 年	備 付 場 所
Philosophical Studies Series in Philosophy. Ed. by Sellers, W. & Lehrer, K. NDL, D. Reidel. (哲学研究叢書)	Vol. 1-6, 8-13	1974-1981	文 学 部
Peabody Museum of Archaeology and Ethnology, Memoirs. (ピーボディー考古・民族博物館々報)	Vol. 1-12	1896-1957	〃
Oeuvres de M. Le Chancelier d' Aguesseau. Libraires Associés. (ダゲッソオ著作集)	Tome 1-13	1787	〃
Psychological Abstracts, with Supplement. Cumulative Author & Subject Index. (心理学文献抄録——著者・件名索引)		1981-1983	〃
Probleme und Ergebnisse der Psychologie. (心理学の諸問題と成果)	Ht. 1-80	1960-1982	教 育 学 部
U. S. Bureau of Education. Bulletin. (合衆国連邦政府教育局報告)	1925-1926	1925-1926	〃
Phi Delta Kappan : A Journal for the Promotion of Leadership in Education. (ファイ・デルタ・カップパン：雑誌「リーダーシップのために」)	Vol. 1-16	1915-1934	〃
The Third United Nations Conference on the Law of Sea. Documents. (Oceana) (第3次国連海洋法会議資料)	Vol. 7	1985	法 学 部
A Comprehensive Bibliography of American Constitutional and Legal History. 1896-1979 (米国憲法・法制史総合文献目録)		1984	〃

National Reporter System. Atlantic Reporter, etc. (全米判例体系)		1985	法 学 部
European Journal of Marketing. (ヨーロッパ マーケティング雑誌)	Vol. 1-14	1967-1980	経 済 学 部
Journal of Accounting, Auditing and Finance. (会計, 監査及び財務雑誌)	Vol. 1-2	1977/8-1978/9	〃
Metra, Louis-François : Correspondance Secrète, Politique et Littéraire. (フランス政治・文芸通信)	Vol. 1-18	1967	〃
Leonardo da Vinci, Corpus degli Studi Anatomici nella Collezione di Windsor. (ウインザー王室図書館所蔵 レオナルドダビンチ解剖手稿集)	Vol. 3	1984	附 属 図 書 館
I. B. Z.-Internationale Bibliographie der Zeitschriftenliteratur. (国際学術雑誌記事索引)	Vol. 21	1984	〃

昭和60年度学生用図書（高額図書）購入報告

I. 継続図書

1. 複数分野

OECD Publication. (経済協力開発機構出版物)

Bibliographic Guide to Government Publications. (政府出版物ガイド・ブック)

国際連合・国際機関主要国統計

2. 社会科学

有価証券報告書総覧 (第1部上場)

3. 自然科学

Sadtler Spectra. (サトラー研究所——スペクトル分析)

Infrared Grating. (赤外分光分析——回析格子)

Infrared Prism. (赤外分光分析——プリズム)

II. 単年度購入図書

1. 人文科学

Utopian Societies: Communal Societies in America.

(アメリカ理想社会とユートピア文学研究叢書)

欧米収蔵中国法書名跡集 全4巻

婦女新聞 (昭和2年—昭和16年)

2. 社会科学

昭和財政史資料（震災から準戦時財政まで）

日本全国資産家地主資料集成 明治編 大正・昭和編

工業統計表 全16巻 昭和14年一昭和17年

3. 自然科学

地球環境科学（地球科学講座）

Comprehensive Insect Physiology, Biochemistry and Pharmacology.

（昆虫学全書——その生理学，生化学，薬理学）

Handbook of Proton-NMR Spectra in Data.

（プロトン——NMR スペクトル・データ・ハンドブック）

SDL Index to Artificial Intelligence Research.

（人工知能研究レポートSDL総索引）

Comprehensive Biotechnology: Principles, Methods and Applications.

（生化学全書——その原理，方法，応用）

The Le Corbusier Archive. Vol. 7, 16-32.

（ル・コルビュジェ建築設計資料）

昭和60年度 附属図書館利用統計（部局別貸出数）

（単位：冊）

区	分	文	教育	法	経済	理	医	薬	工	農	教養	医短	研セ	その他	計
開架 図書	和 書	12,109	2,617	9,255	4,230	12,624	2,072	818	18,337	3,870	241	784	353	576	67,886
庫内 図書	和 書	2,968	675	838	679	578	309	279	901	486	523	186	333	401	9,156
	洋 書	180	34	104	64	94	26	8	75	50	109	0	49	45	838
小	和 書	15,077	3,292	10,093	4,909	13,202	2,381	1,097	19,238	4,356	764	970	686	977	77,042
計	洋 書	180	34	104	64	94	26	8	75	50	109	0	49	45	838
計	(A)	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊
		15,257	3,326	10,197	4,973	13,296	2,407	1,105	19,313	4,406	873	970	735	1,022	77,880
構 成 比	($A_n / \sum A_n$)	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
		19.6	4.3	13.1	6.4	17.1	3.1	1.4	24.8	5.7	1.1	1.2	0.9	1.3	100.0
利 用 人 数	(B)	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
		8,591	1,919	6,069	2,797	7,539	1,392	616	11,132	2,412	410	510	383	542	44,312
構 成 比	($B_n / \sum B_n$)	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
		19.4	4.3	13.7	6.3	17.0	3.1	1.4	25.1	5.4	0.9	1.2	0.9	1.3	100
在 籍 者 数	(C)	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
		1,560	391	1,957	1,078	2,363	2,447	528	6,263	2,227	292	587	1,268	433	21,394
貸 出 密 度	(A/C)	冊／人	冊／人	冊／人	冊／人	冊／人	冊／人	冊／人	冊／人	冊／人	冊／人	冊／人	冊／人	冊／人	冊／人
		9.8	8.5	5.2	4.6	5.6	1.0	2.1	3.1	2.0	3.0	1.7	0.6	2.4	3.6
備 考	【注】 1. 開架図書は主に機械処理による 2. 庫内図書はマニュアル処理による（一部開架図書を含む） 3. 在籍者数は昭和60年5月1日現在														

昭和60年度 附属図書館利用統計（階層別・資料別）

区 分		利用冊数 (冊)	構成比 (%)	利 用 冊 数 内 訳 (冊)					利用人数 (人)	構成比 (%)	利 用 人 数 内 訳 (人)				
				開架 図書	庫内 図書	閲覧 図書	参考 図書	雑誌			開架 図書	庫内 図書	閲覧 図書	参考 図書	雑誌
学 内 者	学部学生	80,071	63.4	57,147	3,544	10,145	2,018	7,217			33,407	2,249	1,465	1,251	
	大学院生	27,936	22.1	8,582	4,461	6,768	859	7,266			4,818	1,863	1,145	474	
	教 官	6,678	5.3	1,116	1,596	1,876	198	1,892			626	623	205	87	
	職 員	3,688	2.9	1,041	393	800	109	1,345	57,480	97.1	544	182	80	95	8,366
学 外 者		7,938	6.3	—	—	5,686	103	2,149	1,745	2.9	—	—	974	68	703
計		126,311		67,886	9,994	25,275	3,287	19,869	59,225		39,395	4,917	3,869	1,975	9,069
構 成 比 (%)			100.0	53.7	7.9	20.1	2.6	15.7		100.0	66.5	8.3	6.5	3.4	15.3
備 考	【注】														
	1. 「開架図書」は機械処理により貸出された利用数														
	2. 「庫内図書」はマニュアル処理により貸出された利用数であり、一部開架図書を含む														
	3. 「閲覧図書」は、雑誌・参考図書を除くすべての資料を「一時持出し」した利用数であり、開架制をとっている現在では本来の閲覧数を把握する事は不可能である														
	4. 「雑誌」の利用人数は階層別集計はしていない														
	5. 一般図書貸出利用冊数は全利用冊数(126,311冊)の61.6%を占める														
	6. 一般図書貸出利用人数は全利用人数(59,225人)の74.8%を占める														
	7. 学内・外の利用比は93.7：6.3である														